

富士の天然水で本格芋焼酎

ミネラル水業者が参入

甲斐の
水問屋 鹿兒島・人気酒造とコラボ

ミネラルウォーターの製造、販売を手掛ける水問屋(甲斐市篠原、風間永臣社長)は、芋焼酎「疾富士」の本格的な販売を始めた。富士山の麓で採取した天然水を使用し、人気銘柄を製造する鹿兒島県の鹿兒島酒造とコラボレーションした商品。「薩摩の伝承の技と甲斐の銘水が生んだ本格芋焼酎」として、山梨のPRにつなげたい考えだ。

〈青柳秀弥〉

水問屋は、疾測量を中心とした疾グループの1社で、2006年に設立。鳴沢村内の地下300メートルから採取した天然水「水まろ源水」などの製造、販売を行っている。ミネラルウォーターはバナジウムを多く含み、硬度19・8と軟水なのが特徴だ。

「疾富士」の製造は、水問屋が仕事で縁のあった関係者を通じて、焼き芋焼酎「やきいも黒瀬」など人気銘柄を手掛ける鹿兒島酒造の総社氏の黒瀬安光さんが「水まろ源水」を口にしたのがきっかけ。黒瀬さんが天然水を気に入り、コラボ商品をつくることになった。

「疾富士」は鹿兒島産のサツマイモからつくられた原酒を基に、「水まろ源水」と合わせて鹿兒島酒造が製造。水問屋が販売元となっている。アルコール度数は25度。口当



県内で生産するミネラルウォーターでつくられた芋焼酎「疾富士(はやてふじ)」

ため、今後は県内の土産店などでも販売する計画。飲食店でも提供する。「疾富士」は、天然水を山梨から鹿兒島に運んでつくることなどから製造本数には限りがあり、量販ではなく、土産や贈答品としての購入を想定して売り出していく。

「疾富士」は720ミリ入りで、税込み1800円。インターネットのほか水問屋でも購入できる。電話(0120)768765。

たりがまるやかで、飽きのない商品という。昨夏からインターネットで一部販売しているが、同社が10月に卸売りの免許を取得し